

国語 (その一)

- ① 国語の問題は、その一、その二、その三、その四、その五、その六の六枚です。
- ② 答えはすべて の解答らん書きなさい。
- ③ 句点(。)、読点(、)は一字として数えます。

受検番号

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【これまでの話】

小学校三年生の夏休み、とうさんの撮影旅行にくつついて中国の北京に行った。そこで、王明明という日本語を勉強しているという中国人と知り合った。ミンミンはぼくを日本語の練習相手として話をしたり、ぼくをつれて故宮博物院に案内したりした。

日本へ帰るとき、ぼくたちは住所を交換し、手紙を書くことを約束しあった。

それから三年後、六年生になった夏休み、突然ミンミンがぼくを訪ねてやってきた。

翌日、ミンミンが海を見たいと言いつ出した。海開きした海岸は海水浴客でいっぱいだった。

そのとき、急に同じクラスの岸本が声をかけてきた。できればさけたい相手だ。いつも岸本と一緒にいる牧野も、その横についていた。

岸本は①仁王立ちのまま、ミンミンをまだにらんでいる。

まわりの人たちが、にわかになぞわついで、ぼくたちをかこんで人の輪ができた。

「なんだ。なにをやつとる?」

海水浴場の監視員のおじさんが、人をかきわけて岸本の前に立った。

「なんだ。このひとをなぐつたのか」

岸本はまだ赤い顔をしていたが、声の調子を低くして、

「あやまれあやまれって、うるせえんだよ」

吐きすてるようにいった。

「②あやまらなきゃいけないようなことを、したのか」

ミンミンは、メガネを拾い、砂をはらってかけなおすと、すこし悲しそうな顔をした。

「ひとの名前を笑ったりしてはいけないけど、いったんです」

「なんだ。そうだったなら、ちゃんとあやまらなきゃならん。それに暴力はぜつたいいかん。あやまりなさい」

監視員のおじさんは、日に焼けた太い腕を岸本の肩にまわし、手でその肩をぼん、とひとつたつき、低くて大きな声で、

「ほら」

今度は岸本の両肩をぐいっつつかむと、ミンミンのほうに向きなおらせた。

「③ご……ごめんなさい」

岸本はぼそつとつぶやいた。おじさんはそれを見て、

「頭くらいさげたらどうだ」

強い口調でいった。すると岸本の表情がくずれ、口のはしががって、目がしらがにわかになくなり、

「④すみませんでした!」

岸本は観念したように頭をさげると、牧野の腕をつかんで、その場から逃げるようにスタスタと歩きだした。

「どうもありがとうございます」

ミンミンはおじさんに頭をさげた。

「まあいろいろ⑤トラブルはあるが、それにしても最近の小学生は……態度ばかりでかい」

おじさんは I いいながら、監視場へもどっていった。

ミンミンは、服についた砂をはらいながら、だまってしまったぼくの顔を見た。

「悠介。悠介は、もつと自分を大事にしないとイケません。自分を大事にしないと、ほかの人を大事にできません」

「そうはいつてもね。空気読まないとき」

ぼくは、ひたいににじんだ汗をぬぐった。

「空気を読むって、どういう意味ですか?」

「なんっていうか、言葉を口にださないで雰囲気を感じて行動すること、かな」

「それなら、なんのために言葉があるのですか」

ミンミンは、真顔でそういい、

「読むのは本や新聞でじゅうぶんです。さあ、帰りましょうか」

ぼくの背中を軽くたたいた。

ぼくはといえば、夏休みが終わって岸本と牧野に会うときのことを考えた。またいじられるかもしれないと思うと気が重

い。でも、それはそのとき考えるしかない。

ぼくは、背筋をピンとのばしたまま大またで歩いていくミンミンの背中を見て、⑥小さなため息をついた。

- ① 国語の問題は、その一、その二、その三、その四、その五、その六の六枚です。
- ② 答えはすべて の解答らんにご書きなさい。
- ③ 句点(。)、読点(、)は一字として数えます。

受検番号

問七 次の会話は、「まっすぐな地平線」の紹介文を書くための話し合いの様子です。

藤原さん 紹介文を書くときは本の題名と、作者名が必要だよ。あと、あらすじもあった方がいいよね。

木崎さん あらすじって必要？そんなに書くスペースないし、それよりもっと印象的な内容を紹介した方がいいよ。

三島さん 賛成。あらすじよりも、登場人物の会話や行動を書いた方が紹介文を見た人も手に取りやすいと思うよ。

藤原さん そうか。確かにね。その方が伝わりやすいかも。あらすじはカットしよう。

木崎さん では、あらすじは書かないことに決定！

三島さん それじゃ、あらすじのかわりに、登場人物の絵とか本の表紙とかを入れてみようよ。文字だけよりも見やすく
なると思うよ。

藤原さん 私は絵を描くのが苦手だから、表紙を入れようかな。「ピーをとってはれば、すぐできるし」。

木崎さん 確かに見た目も大事だけど、内容の方が大切だよ。ただ文章を抜き出すだけじゃ伝わらないよ。そこから本の
よさが伝わるように書かないと。

三島さん 紹介する人が、どう感じたのか、感想や登場人物のよいところを書くよ、伝わりやすいし、読みたくなるよ。

～(話し合いが続く)～

「まっすぐな地平線」紹介文

「まっすぐな地平線」 作者 森島いずみ



ブックデザイン 矢野のり子

カメラマンの父親の取材についていた悠介は北京でミンミンという中国人と知り合う。

三年後、そのミンミンが、日本にやってきた。まっすぐなミンミンに振り回される悠介が…。

この作品は登場人物のミンミンがとてもいきいきと描かれています。ミンミンは少し考え方が違います。私だったら思わずだまってしまう場面でも、思ったことは口にしないと気がすみません。

私が印象に残ったミンミンの言葉は「それなら、なんのために言葉があるのですか」です。

私は、いつも周りの人に合わせてしまうのですが、ミンミンの考えにとっても共感しました。

A

ぜひ、読んでください。おすすめです。

(二) A に紹介文の続きを書きます。ミンミンのよさを書いて紹介文を完成させなさい。

A

(二) この紹介文には、話し合いの内容にあてはまらないものがあります。何があてはまらないのかを説明しなさい。

国語 (その四)

- ① 国語の問題は、その一、その二、その三、その四、その五、その六の六枚です。
- ② 答えはすべて の解答らん書きなさい。
- ③ 句点(。)、読点(、)は一字として数えます。

受検番号

二 資料A 資料B 資料C を読んで、あとの問いに答えなさい。

太郎さんは、夏休みの自由研究で「毒を持つ鳥がいるのかどうか」というテーマを考えました。その後、「夏休み子ども科学電話相談」の「毒を持つ鳥がいるのかどうか」という質問のやりとりが書かれてある本を買いました。その一部が資料Aです。さらに、図書館へ行って「鳥」についての本をみつけました。その一部が資料Bです。

資料A

回答者：「①毒のある鳥、いると思う？」

質問者：「……いると思うけどお……。いないと思う！」

回答者：「あははっ、えっとね。先生もずつといないと思ってたの。それで、鳥って今、世界中に九〇〇〇種類ぐらいいるんだよ」

質問者：「ええええー！」

回答者：「スズメとかカラスとか、いっぱいいるでしょう、そういうのを全部入ると九〇〇〇種類なの」

回答者：「でね、ずーっと前から先生は鳥を調べているんだけど、『鳥に毒はないから、とても平和な生き物だー！』って、いろんなところで言ってたの」

回答者：「ところがね、毒のある鳥が見つかったんだ、これが。一九九〇年ぐらいのときだから、今から二十五年ぐらい昔。まだ、みなさんは生まれていなかったけれど、先生は、もう鳥のお仕事をしてるときだったの。ショックだったよー！これまで、いないって言ってたから(笑)」

回答者：「パプアニューギニアとかインドネシアってわかります？南のほうの国。そのジャングルみたいなところに棲んでる鳥だったの。どうして見つかったか？って言うよね。鳥の研究してる人が、その鳥を捕まえたときに、ちょうど手に怪我をしてたんだって……」

質問者：「はあー」

回答者：「その鳥に触ったらね、怪我してるところが刺激を受けて。きつと痛かったんだらうね。それで、なんでだろう？って調べたら、毒があることがわかったの」

質問者：「はい」

回答者：「その鳥は、『ズグロモリモズ』って名前なんだけど。ズグロ(頭黒)っていうのは頭が黒いってことね。そして、モリは森ね。で、モズっていう鳥がいて、それに形が似てるから、ズグロモリモズ」

回答者：「毒がある生き物は、普通はエモノを捕まえたり、怖い敵から逃げるために毒を使うよね。……だけどね、この鳥は、自分の体の中に強い毒があるの」

質問者：「ええええー？」

回答者：「自分が食べられちゃったときに、初めて毒が効くんだよ。だけど、鳥を食べたケモノは死んじゃうので、『この鳥は危険だ』って学ばないよね。だからね、まだ不思議なんです」

回答者：「見つかって二十年ぐらいしか経ってないので、いろんな研究をしているところだと思います」

回答者：「実は、パプアニューギニアとかアマゾンとかのジャングルには、まだよく調べられていない鳥がたくさんいます。ズグロモリモズは、触った研究者の人が、たまたま手に怪我をしていて痛くなって、それで、毒があるのがわかったので、これからも毒のある鳥が見つかるかもしれません」

質問者：「はい」

回答者：「だから今は、②『鳥って平和的な生き物だ』って言わないようにしていますよ。ただ、九〇〇〇種類のうち、たったの二〜三種類が報告されているだけなので、全体から見たら毒を持っている鳥は、大変少ないと思ってください」

△「大人もおどろく『夏休み子ども科学電話相談』(NHKラジオセンター

「夏休み子ども科学電話相談」制作班) SBクリエイティブ株式会社 二〇一七V

《注》

*1 パプアニューギニア・・・46.2万平方キロメートル(日本の約1.25倍)の国土面積を有する島国

*2 インドネシア・・・約189万平方キロメートル(日本の約5倍)の国土面積を有する島国

*3 ズグロモリモズ・・・スズメ目カラス科の鳥 毒を持つ鳥として知られている

- ① 国語の問題は、その一、その二、その三、その四、その五、その六の六枚です。
- ② 答えはすべて [] の解答らん(らん)に書きなさい。
- ③ 句点(。)(句点)読点(、)(読点)は一字として数えます。

受検番号

資料B

体に毒をたくわえる鳥のしくみ

二十世紀の末まで毒をもった鳥は発見されておらず、暗殺に利用されたのは伝説上の毒か、なにか別の毒だったのだろうと考えられていました。 I 一九九二年、ニューギニアで羽毛や筋肉(きんじく)に毒をもつ鳥が発見されたのです。

調べるとその毒は、南米に棲むヤドクガエル(やどくがえる)がもつ強力なアルカロイド系の神経毒バトラコトキシニンに近い、ホモバトラコトキシンで、十分な殺傷能力があるものでした。

現在、「ピトフーイ族」という名称でまとめられている毒のある鳥は六種が知られています。代表的な鳥は、コウライウグイス科のカワリモリモゾとズグロモリモゾ。グループ中、この二種の毒が最強となります。このほか、モズヒタキ科の三種とカンムリモズヒタキ科の一種がグループに含まれています。

コウライウグイスは、中国古代の漢詩などで「ウグイス」と呼ばれた鳥です。ピトフーイは、この科を含む③ふくすうの科で構成されるため、毒をもつ④特質は、それぞれの種が⑤独自(どくじ)に身につけたものと考えられています。

なお、その毒は、鳥がみずから体内で合成したのではなく、毒に対する耐性(たいていせい)をつくりながら、毒をもった昆虫(こんちゅう)などを食べることで体に蓄積(たくせき)していったものと考えられています。こうしたしくみが、ベニイロフラミンゴや赤カナリアと共通していました。

ただし、彼らが毒をもつようになったのは、他者を攻撃(こうげき)するためではなく、「だれかに食べられるのを⑥ふせぐため」だったと考えられています。食べた具合が悪くなった、死んだ、と周囲の生物が認知(ちんち)することで、捕食者(ほしょくしゃ)の襲撃(しゅうげき)を回避(かいひ)できるからです。

△「知っているようで知らない鳥の話」(細川博昭) S Bクリエイティブ株式会社 二〇一七△

《注》

- * 1 殺傷……殺したり傷つけたりすること
- * 2 耐性……病原菌(びょうげんきん)などが、ある薬に対して抵抗(ていこう)して生きる性質
- * 3 認知……そうだと、はっきりみとめること
- * 4 回避……悪い状態にならないように、さけること

次の資料Cは、太郎さんが資料Aと資料Bを読んだ後に「ピトフーイ族」という名称でまとめられている毒のある鳥をまとめているものです。
なお、まだ完成していません。

資料C

毒をもつ鳥はいる!

「ピトフーイ族」という名称でまとめられている毒のある鳥は6種!

「ピトフーイ族」

コウライウグイス科
あ
い
モズヒタキ科
カンムリモズヒタキ科

